



宝篋印塔

## 宝篋印塔

昭和五年二月 村重要文化財指定

所在地 新鶴村大字和田目字沢田乙七四九

(多勢寺境内)

管理者 沢田部落

宝篋印塔はインドに発して中国に渡り、奈良時代には我国にも伝えられたものであり、本来「宝篋印陀羅尼經」を納めるために造られ、五輪塔や板単と同様の供養塔であったが、平安期頃より墓石として用いられるようになった。

沢田の宝篋印塔は、もと村東 小沢田北の太子堂跡より出土したものを、現在地に移し保存している。

全体的に調和が美しく、特に馬耳形は直立して古さを表しており、方座の部分には、「発心門」「菩提門」「修行門」「涅槃門」を示す梵字が彫られている。形態から南北朝頃のものかと思われる。

最下部の台座（蓮座）は掘り出す事ができなかったが、二番目の台座（高さ三〇センチ）があり、全高九五センチである。

### 角塔婆の梵字

(上から空、風、火、水、地を表わす)

